

令和5年度 第1回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：令和5年8月1日（火）午前10時から10時55分まで

場 所：江別市民会館2階21号室

出席委員：田口智子座長、粕谷堅一郎委員、伊藤留美子委員、布施望委員、福沢康弘委員、齋藤史朗委員、佐々木尚弘委員、腰原久郎委員、荒木太郎委員（計9名）

オブザーバー：矢野敦子石狩振興局地域創生部長

欠席者：龍田昌樹座長代理、古市俊章委員、小西祐哉委員

事務局：白崎企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口政策推進課参事、北島主査、眞鍋主査

傍聴者：なし

会議概要

1 開会

2 議事（1）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、事務局説明
○福沢委員

私から、基本目標1についてお伺いする。

市内の企業へ就職した大学生・短期大学生33人、高校生が14人ということだが、市内における新卒者の求人数などは把握しているか。

○事務局

市内における新卒求人数については、現時点で把握していないが、市内でどれほどの新卒の就職キャパシティがあるかということは、我々も把握に努めたい。把握した結果は、各委員に報告するなど、対応を検討したい。

○福沢委員

関連して、私は江別市と周辺7市町で実施している「ジモ×ガク」という、学生の地域定着に向けた事業に携わっており、市内企業の方から中途採用という形で、江別市に戻ってくる方がいないだろうかと相談を受けることがある。

ジモ×ガクは、新卒者の定住に関する取組であるが、総合戦略の基本目標2に掲げる「えべつへの新しい人の流れをつくる」に関連して、中途採用やUターンといった取組にも力を入れていただきたい。

○事務局

江別市ではジモ×ガクという市内大学生の定住促進プロジェクトに加えて、「EBETS U t o（えべつと）」という、大学生の関係人口の創出に向けた取組も行っているところ。

EBETS U t oは、関係人口の考え方のもと、市内にいる大学生等が、卒業後に江別市を離れても、江別市との関係性が途絶えることなく、出産や子育て、住宅の購入などを契機として、江別市に戻ってきてもらえるよう、江別市に愛着を持ってもらう事業である。

委員ご指摘のとおり、江別市に戻ってきてもらう契機には、中途採用やUターンなども含まれると考えるので、関係人口の創出に向けた取組を今後も進める必要があると考えている。

○田口座長

私の専門が労働雇用であるため、一言コメントしたい。

恐らく、全国のハローワークや様々な団体等でも、そのような中途採用やUターンによる就職の支援制度やイベント等も実施しているので、産学官が連携する中で、江別市でも取組を強化していくと良いのではないかと考える。

○荒木委員

私から、企業版ふるさと納税について、3点お伺いする。

企業版ふるさと納税は、多くの自治体が力を入れているところと思うが、1点目として、令和4年度は9社からの寄附があったとのことだが、どのような業態の企業からの寄附が多いのか。2点目は、全体でどれくらいの寄附を受領しているのか。3点目は、江別市のどのようなところに魅力を感じて寄附をしてくれたのかをお伺いする。

○事務局

1点目については、建設業や小売業など、様々な業態の企業から寄附を受領している。

2点目については、寄附額は、10万円から数百万円と幅があるが、9社全体で、約1,800万円の寄附を受領している。

3点目については、市内に関連施設があるなど、江別市に関係性がある企業からの寄附もあるが、江別市が実施している少子化対策や子育て中の母親の就職を支援する事業や、江別市の特徴である大学生に関連する事業に活用してほしいということで寄附の申し出をいただくことがある。

企業版ふるさと納税は、令和2年度から税制優遇が拡大され、江別市における寄附受領額も令和2年度が130万円、令和3年度が200万円、そして令和4年度には約1,800万円と増加してきているところ。

江別市の地方創生の取組に対し、理解を頂戴しているところも当然あるが、令和2年度の制度改正が非常に大きいものと考えている。今後も、市として、企業版ふるさと納税の獲得に向け、一層力を入れて、地域貢献できる取組を進めてまいりたい。

○田口座長

私から、基本目標3についてお伺いする。

主な取組事業に、子育て広場ぽこあぽこ改修事業もあり、江別市では、積極的に子育て支援に取り組んでいると感じており、市民からも高い評価を得ていると思うが、子育て環境が充実していると思う市民割合が約50%となっている。改めて、江別市における子育て環境の中で不足している、あるいは、不満足に感じられているという点について、江別市ではどのように理解されているか。

○事務局

一つ目に考えられるのは、この間の急激な子育て世帯等の転入増加に伴い、一時期、保育所が不足したという点である。その後、保育所は新規開設等により、増えてきているところであるが、子どもたちの成長に伴い、保育所の次には、放課後児童クラブが不足するという問題があるところ。現在は、様々な働き方が増えてきており、また、共働き世帯も多いことから、江別市としても放課後児童クラブの定員増加に力を入れているところである。

二つ目として、周りの自治体を見ると、子どもの医療費がかからないようなところもあり、

江別市でも子どもの医療費に対する支援の拡充など、子育て世帯への経済的な負担を軽減する取組が求められているという点が考えられる。

○田口座長

子育て世帯への支援や、大学生に対する取組、中途採用を含む就職に関する取組も非常に重要だが、それ以外のところでも、企業版ふるさと納税の実績が増加している一方で、北海道林木育種場旧庁舎保存利活用推進事業では、誘致企業と地元企業との連携による製品開発数がゼロであるなど、経済的な観点から、どこが問題で、今後何に取り組むべきであるかを検討するにあたって、様々なデータを連動して議論する場があると良いと考える。

議事（２）令和４年度江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業（地方創生推進タイプ及び拠点整備タイプ）の実績報告について、事務局説明

○田口座長

私から、江別市就労支援プログラム事業についてお伺いする。

就労支援プログラム事業を活用して就業できた人数は１４５人とのことだが、その内訳として、業種や職種等についてお伺いしたい。

○事務局

１４５人の内訳として、大きく二つに分かれる。

１点目に、仕事を探している女性や高齢者への支援を中心とした、江別まちなか仕事プラザ事業を活用して就業できた人数が１３５人。２点目に、介護人材養成事業を活用して就業できた人数が１０人となっており、この１０人については介護関係の職に就業したところ。

江別まちなか仕事プラザを活用して就業した１３５人の内訳は、非常に幅広く就業しているところであるが、最も多い業種が医療福祉関係で３３人、次に多い業種がサービス業で２９人、次に多い業種が製造業で１６人と続いている。

○田口座長

江別版生涯活躍のまち推進事業において、拠点エリアに雇用人数が２０４人とのことだが、その内訳として、正規、非正規職員の割合等についてお伺いしたい。

○事務局

正規、非正規職員の割合等の資料は持ち合わせていない。

関連して、目標値として１８５人を掲げていることに対して、２００人を超える雇用となっていることについて、担当課に確認したところ、短時間勤務となる生活支援員を複数人採用するなど、多様な職種の雇用に努めているとのことであった。

３ その他（１）えべつ未来づくりビジョン＜第７次江別市総合計画＞の素案について、事務局説明

○田口座長

様々な市民参加の取組や、江別市の各部署で議論をされた上で作成された素案であるので、これがしっかりと形になることを期待する。そして、江別市が魅力あるまちとして、人口を維持し、子どもから高齢者に至る全ての市民が元気なまちであることを期待する。

その他（２）今後のスケジュールについて、事務局説明

- ・今年度第２回の有識者会議は、令和６年１月頃の開催を想定しており、継続協議している有識者会議の今後の在り方等について協議いただく予定であることを確認した。
- ・また、国では現行の第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改定し、名称をデジタル田園都市国家構想総合戦略に変更したことから、江別市の総合戦略の改定に際して、どのような手法、推進体制とすることが望ましいかを内部で検討中であることを報告した。

４ 閉会